



校報 水糸者

No. 898

29年度・第71号

「いつか」ではなく、必ず起こる『自然災害』 「自ら判断し、自分の命を守る」種小っ子となるために…

今年度3回目となる、全校児童対象の避難訓練を1日の『防災の日』に実施しました。4月の1回目は、火災が発生した場合における安全な避難の経路や方法などを確認する事

を同じく4月に行った2回目は、不審者が侵入した時の『暗号』の理解と安全な避難方法の習得がねらいでしたが、今回は子ども達が正しい避難行動がとれるのかを確認するために行った『予告なし』の訓練でした。



【今回のねらい】

近くに大人がいない場合でも、落ち着いて避難行動がとれる児童の育成

地震などの自然災害時にいつも大人がそばにいるとは限りません。子どもたち自身にも「自らが判断できる能力」が求められます。その能力を養っていくためには、定期的な訓練の繰り返しはもちろん、「正しい事前と事後学習」をきちんと行うことが大切です。

事前学習

- ①各学級では、校舎内外の「地震が発生した場合の安全な場所はどこなのか」の発見と確認をしあった。
- ②校舎内外の安全な場所は「(物が)落ちてこない、倒れてこない」を所であることを理解させ、そのような場所を見つけさせた。
- ③その他、火災でも地震でも共通する事項(放送を静かに聞くなど)の確認を行った。

実際の避難訓練の様子



学級園周辺で、虫捕りに夢中だった1年生も「ダンゴ虫のポーズ」で身を守っています。

中休みの時間中に予告なしに「地震が発生！」

子ども達は、事前学習で理解した「落ちてこない、倒れてこない」場所を見つけ、安全確保の姿勢をとっています。



教室にいた子は机にもぐり、校庭にいた子は真ん中に集まり「ダンゴ虫のポーズ」

訓練のための訓練ではなく、自らが考え、正しく状況を判断できる態度を養っていくためには、『事後指導』も大切になって来ます。今回の避難訓練で「できた事とできなかった事」を冷静に振り返る事で、正しい知識と実践への意欲が高まっていきます。

今回のキーワードでもあった「落ちてこない」と「倒れてこない」、「動いてこない」は、登・下校中や休日など一人でいる時にも、命を守るために大切なキーワードです。

平成7年1月17日の「阪神淡路大震災」では、避難した後亡くなった方々も多くいたことが報告されています。

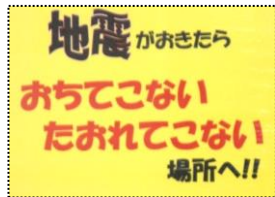
せっかく避難所までたどり着いたのですが、避難所内で周囲の方々とうまくコミュニケーションをとりながら、共同生活ができなかった人や野外炊事ができなかった人達に、避難した後命を落とした方々が多くいたようです。

その事があってから、神戸市の小・中学校では、宿泊体験学習を1週間としました。（現在も、1週間の宿泊体験学習を行っているかは未確認です）

『コミュニケーション』については、日頃から、地域の方々にもしっかりとあいさつをする習慣をつけさせることや、「痛い」や「辛い」、「楽しい」など、自分の感情をきちんとと言える習慣をつけさせておくことが必要です。

『野外炊事』については、5年生の宿泊体験学習で行って来ますが、「支援する会」が毎月行っている行事は、全てのプログラムが「五感を刺激する体験学習」ですので、積極的に参加させることも有効ですね。

今回の避難訓練も、心や物の「備えと構え」が大切であることが理解できた避難訓練となりました。



…この日は、職員間の訓練も行いました…



「通勤途中」に地震に遭遇した役の職員が、通学中の児童の状況やその避難誘導の結果を、副校長に報告している職員。

予告なしの避難訓練を行った1日の朝には、本校職員だけの「災害時対応訓練」を行いました。

7時15分に青森県東方沖でM7.8の巨大地震が発生した場合を想定し、通勤前の職員や通勤途中の職員、職場に到着している職員、通勤経路が遮断され、職場に到着できない職員などを想定してのいろいろな動きを再確認しました。

実際に全職員を対象とした訓練を行ってみて、机上とは異なる事や、マニュアルを見直さないといけないこと等が判明した、職員訓練となりました。

お知らせ

～「洋野町小学校夏休み作品展」が開催されています～

セシリアホールで、町内8校の小学生の夏休み作品展が、2日から開催されています。

本校からも18点出品しています。作品展は12日（火）までとなっています。